

浴衣の作法 熱心に

香川誠陵中で着方教室



高松市鬼無町の香川誠陵中学校（丸谷幸彦校長）でこのほど、浴衣の着方教室があり、生徒たちが和装の着こなしなどを体験し、日本の伝統作法を学んだ。写真。

着方教室は生徒に伝統文

児童生徒は今後、草抜きや水やりなどの世話を続けながらチョウを待つほか、飛来が確認できれば、移動調査のマーキング（標識付け）も体験する予定。杉村会長は「秋の渡りの季節は、この島で瀬戸内国

際芸術祭が開かれている。自分たちが育てたフジバカマにチョウがやって来る喜びをぜひ味わってもらい、自然の不思議さや神秘さなども感じてほしい」とプロジェクトの成功にエールを送っていた。

会員が講師を務め、3年生64人が参加した。生徒たちは青や黄など夏を涼しげに彩る色鮮やかな浴衣を身にまといながら、講師のアドバイスに熱心に耳を傾け、帯の正しい結び方や着方のコツをつかんでいた。

仏トウル大教員 高松副市長を表敬

交流促進へ意見交換

高松市の姉妹都市、仏・トゥール市にあるトゥール大の教員が28日、高松市役所に松下副市長を表敬訪問し、今後の学術交流活動の促進などについて意見交換した。写真。

訪れたのは、トゥール大プロフ技術短期大学部国際交流室のクリスティン・フアーマー室長。同大は昨年12月に香川高

専と学術交流協定を結び、学生の相互交流などをスタート。フアーマー室長は、今年4月から香川高専に短期留学している学生の評価などのため、25日に来高した。

松下副市長は「両市の学生や地域の相互理解を今後も深めていきたい」とあいさつ。フアーマー室長は、今年秋に香川高専の学生が



トゥール市を訪問する計画に触れ、「高松市の学生たちにはフランスの文化や生活を楽しんでほしい」と話した。

記者ノート

苦しい時を乗り越えてきたからこそ、すっと出た言葉だったのだろう。「自分もつれい。それ以上にみなさんが喜んでくれたことがうれしい」

胸にリオへ

直後のインタビューで喜びをこう表現した。最も苦しんだ時期は4年前。ロンドン五輪出場を懸けた日本選手権で記録が伸びず、五輪切符は絶望的。「会者、両親、手術後に結婚した妻の弘美さん。感謝する人を挙げれば

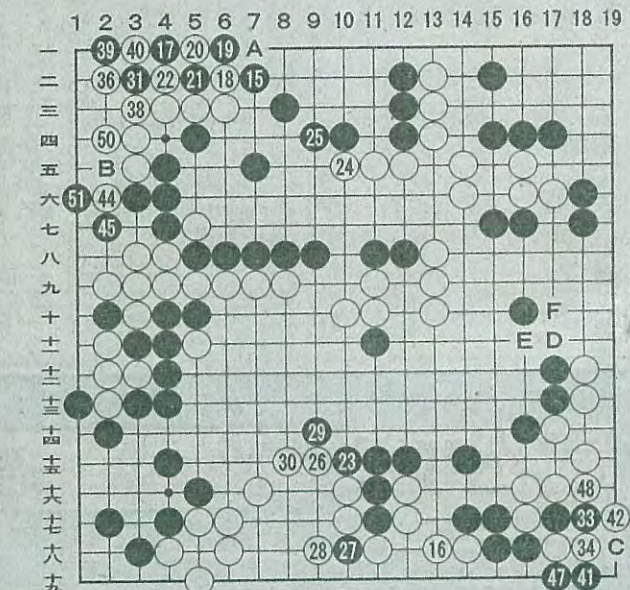
折れた衝撃で右肩を負傷した。選手生命の危機に立たされた。それでも支えてくれる人がいた。コーチや地元の恩師、陸上関係者、両親、手術後に結婚した妻の弘美さん。

感謝する人を挙げれば

本戦2回戦第3局◎116-151 (黒115は再掲) 白 八段 村川 大介 (関西棋院・25歳) 黒 九段 後藤 俊午 (日本棋院・49歳)

碁聖戦 第41期

(六目半) (六コ出し)



逆転ムード?

黒が上辺15のコウシに回って、ここから第2のコウシ、とうやら地合いは急接ウが始まる。白は38で39、黒40、白D、黒E、白Fならまた白

黒23以下29はヨセを兼ねてのコウ材づくりである。右隅黒41のコウダテに、村川は素直に白42と受けた。そのため、左上隅で白は44から50と手を入れる

お互い持ち時間が切迫する中、コウ争いが始まった。秒読みに追われ、後藤は及ぼすことになった。

消費 〇2時間55分 時間 ●2時間57分 (持ち時間各3時間)